

質問事項	質問の要旨
<p>1 避難計画の見直しと再稼働同意について</p>	<p>宮城県の試算によると、女川原発の重大事故時に5～30キロ圏内(U P Z)の住民が圏外の避難所へ避難するのに最長で約3日かかり、5キロ圏内(P A Z)の住民も最長で3日弱と推計。現状のままでは5日以上要する恐れもあるとし、避難計画の見直しを急ぐ(河北新報5月22日付)と報道されました。</p> <p>3月定例会でも避難計画と避難訓練の問題点について質問しましたが、改めて問題点が浮き彫りになったと思います。</p> <p>(1) 県と連携し避難計画の見直しを急ぐとありますが、具体的にはいつまでにどのような見直しをするのですか。</p> <p>(2) 住民への周知方法は、これまでのように広報やチラシ等だけでは全く不十分です。具体的に地域ごとに避難訓練(U P Z含めて)をすることが実効性のある避難計画ではないですか。</p> <p>(3) 避難計画の見直しが報道されたことで、そこまでして再稼働することはないとの声も聞かれます。このような状況下にあっては、再稼働の同意はすべきでないと考えますが。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問事項	質問の要旨
2 保育所入所時における 保護者負担軽減を	町外から転入された保護者からの声です。
	町立保育所の保育方針に「保護者の子育てを支えます」「子どもと子育てにやさしい地域をつくれます」とありますが、入所時の準備物の多さとともに、制服、運動着、黄色の帽子等含めて約2万円程かかることに驚いています。
	例としてですが、仙台市の認可保育園（岩切あおぞら保育園）では、制服も運動着も黄色の帽子も無し、着替え箱の作成も無し、お昼寝用のえり掛け縫い付けや、大人用タオルケットを二つ折りにして周りを縫う作業も一切無しなど、保護者の負担の違いが浮き彫りになりました。
	(1) 仙台市の認可保育園と比較してもあまりにも負担が多すぎますが、40年以上前から変わらない保護者負担(特に着替え箱の作成など)を見直すべきと考えますが。
	(2) 仙台市では給食費として月5,500円(主食代1,000円、副食費4,500円)ですが、ごはんや麦茶の持参はありません。町では月、火、水、金は白ごはん持参、水筒に麦茶持参とありますが、副食費にはおやつ、牛乳、お茶代含むと書

質問者 阿部 律子

質問事項	質問の要旨
	<p>いてあるのに何故持参なのですか。</p> <p>働いている保護者の負担軽減のためにも、完全給食にしてほしいとの声ですが、どうでしょうか。</p> <p>(3) 県内一の子育てしやすい町づくりをアピールするためにも、2年後に新しい保育所が完成する時期に合わせて、給食費の無償化を検討すべきと考えますが、その際、どのくらい予算がかかるかを見ていますか。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問事項	質問の要旨
<p>3 女川町におけるPCR等の検査体制は</p>	<p>新型コロナウイルスの感染者が石巻保健所管内から出ていないことにほっとしているところですが、「第2波」「第3波」に備え、気を抜くことなく暮らしていかなければなりません。</p> <p>(1) 地域医療センターでは、発熱外来を設け新型コロナウイルス感染者に対応していますが、本町において、疑いのある患者でPCR検査を受けた方はおりますか。</p> <p>(2) また、国の専門家会議の提言では、新型コロナウイルスの「次なる波」に備えて、検査体制や医療体制を強化していく必要があるとしていますが、具体的な方向性はどのようになっていますか。</p> <p>(3) 6月1日からの学校再開により、子どもたちの感染を心配する声も聞かれます。そのような中、感染の有無を短時間で調べることができる「抗体検査」の検査キットを他県（大阪府泉佐野市）で独自に取り入れたようですが、本町でもぜひ取り入れを検討してはいかがでしょうか。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>